

河北春秋

やなせたかしさんの『アンパンマン』が絵本として初めて世に出たのは1973年。当初、アンパンマンが自分の頭を食べさせるのは残酷だと大人たちの不評を買ったが、やなせさんには信念があつた▼41年、22歳で陸軍入隊後、中国戦線に送られた。軍隊生活で痛感したのは、正義というものはとても簡単に逆転してしまい、ひもじいことがいかにつらいかということだった。覆らない正義は、ひもじい人を助けること。子どもたちに愛されるヒーローの原点は戦争体験にあつた▼終戦からきょうで75年。今の日本は飽食と言われ、食べ物に困ることはほとんどない。しかし、世界では9人に1人が飢えに苦しんでいるとされる。多くは後を絶たない紛争によるものだ▼戦後、日本は曲がりなりにも戦争をしないできた。だが、安倍晋三首相は、専守防衛から逸脱するとの懸念が深まる中、敵基地攻撃能力保有に前のめりだ。私たちが享受している平和は、砂上の楼閣のようなものなのかもしれない▼やなせさんの2歳年下の弟は特攻隊に志願して戦死した。へなんのために生まれてなにをして生きるのか。『アンパンマンのマーチ』の歌詞には、戦争で最愛の肉親を失ったやなせさんから私たちへの重い問いが込められているように思える。(2020・8・15)

問題

①『アンパンマン』の作者、やなせたかしさんが「軍隊生活で痛感したこと」は何ですか。二つの視点で答えましょう。

()
()

② 覆らない正義である「ひもじい人を助ける」ために、アンパンマンは、ひもじい子にどのようなことをしますか。

()

③「やなせさんから私たちへの重い問い」とはどんなことだと思いませんか。想像して自由に書きましょう。

()

(中学生／朝の会前の10～15分)

出題者から

アンパンマンは、寛容で自己犠牲をいとわず、おむすびやばい菌とも共生していま

す。この究極のヒーローは、やなせさんの戦争体験による信念に貫かれていることを知り、大人になった今は、別の視点でアンパンマンを見て

みたと思いました。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高森中教諭 木下晴子)

河北新報で自習しよう！

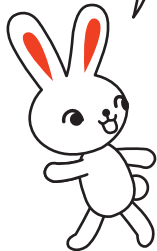
答えは23日の朝刊に



かほく
ワークシート

【かほくワークシートの模範解答】

22日の
答えだよ



①『アンパンマン』の作者、やなせたかしさんが「軍隊生活で痛感したこと」は何ですか。
二つの視点で答えましょう。

（正義というのはいとも簡単に逆転してしまうこと）

（ひもじいことがいかにつらいかということ）

②覆らない正義である「ひもじい人を助ける」ために、アンパンマンは、ひもじい子にどのようなことをしますか。

（自分の頭を食べさせること）

③「やなせさんから私たちへの重い問い」とはどんなことだと思いますか。想像して自由に書きましょう。

解答例1（人々が亡くなったりひもじい思いをしたりする戦争は二度としてはいけない）

解答例2（困っている人がいたら、手を差し伸べてあげられるような生き方をしてほしい）